二才児の生活と保育

＝教材やカリキュラムの観点から＝

久富御治代

保育所の入所児は、年々その年令が低下し、三才未満児が次第にその数を増している傾向である。その中での二才児の保育が、どのような形で行なわれているかをみると

二才児だけの組を作って保育している。　9％

三才未満児の混合保育をしている。　68％

幼児と混合保育をしている。　23％

（昭和三十九年十月実施　名古屋市、一宮市、岡崎市、瀬戸市、各公立保育園四十五園の実態調査による。）

となっており、ほとんどが混合保育の状態であることがうかがえる。

このような混合保育の場合に、そのカリキュラムはどうあったらよいか、常に問題になるところであるが、混合保育組のカリキュラムを作る前に先ず各年令の標準的、系統的なカリキュラムがなければならない。その基準をもとにそれぞれの年令の子どもの活動をくみあわせ、配列させて、その組のカリキュラムが作られるのである。

このような考えから二才児組の基準的なカリキュラムの作製を試みたが、次にその作製過程と結果をまとめてみることとする。

(一)　二才児の教育課題

二才児の発達からその特質をおさえ、教育課題を次のようにした。

(1)　身体機能を積極的に発達させる。

(2)　自立への強い指向をのばす。

(3)　社会生活の範囲を積極的に拡げる。

(4)　ことばの指導をとおして、表現力や理解力をたかめ、さらにことばをとおして思考や概念を育てる。

（日本保育学会第十八回大会　田代高英氏発表参照）

以上、四つのことを中心に、その保育活動を考え、指導の内容をあげてみた。

すなわち、(1)は健康安全指導として、(2)は生活指導として、(3)はあそびの指導とした。(4)はあそびの指導の中でも行なわれるが、子

どもの生活全体をとおして、すべての場で行なうこととした。

(二) 保育活動のねらい

子どもの活動を指導する三本の柱、すなわち健康安全指導、生活指導、あそびの指導は、それぞれ三才、四才、五才と順次発展するもので、そこに一貫性が必要である。年令別に系統立てて考えた保育活動のねらいは（表1）のようである。

(1) 健康安全指導

二才児の場合は、子ども自身が積極的に活動するというより、もっぱら保母の配慮が中心になり、その適切な指導に子どもがついてくることをねらいとした。

(2) 生活指導

個人的生活指導では、基本的生活習慣を中心に、自分でしようとする意欲を持たせるようにする。二才児では、まだ能力的に自立ができず、手助けを必要とすることも多いが、「自分でしたい」という気持ちは充分うかがわれる時期であるから、この意欲を育て、やがて自立できる三才児の時に、行動面でも精神面でも完全に自立できるようにしたいと思う。

社会的生活指導では、その内容を社会的訓練（保母が中心）と、クラス集団の指導（子どもの活動が中心）とを含めた。そして二才児では、先生を中心として集団生活をするために、守らなければならない最低のきまりを、先生の模倣をしながらおぼえることがあげられる。クラス集団の指導は、四才児から重要なねらいとなってくるものである。

(3) あそびの指導

あそびの指導を、自然発生的なあそびの指導と、意図的なあそびの指導にわけ、いわゆる自由あそびとして、とかく放任されている子どもの活動を重要視し、そのあそびを次第に組織化していくことを強調した。

二才児では、特にこの指導がたいせつで、そのための保母の配慮が、充分検討されなければならないと思われる。個人のあそびを充分にたのしませながら、その間の友だちとのふれあいをたいせつにし、友だちとのあそび方、それに必要なことばなど、行動をとおして学んでいくことをねらいとした。

意図的なあそびは、やがて教科的活動に発展していく内容のものをふくめ、その活動が個人的活動から集団的活動へ、先生の計画が子どもの自主的な創造的活動に、それぞれ発展していくようにした。

二才児では、先生の意図したあそびに興味を示すようにし、とくにその指導方法、教材などに留意するようにした。更に、二才後期にみられるごっこあそびをとおし、集団生活での簡単な役割を経験するようにした。

表1　保育活動のねらい

項目＼年令		2才児	3才児	4才児	5才児
健康安全指導		・先生の配慮を中心として，先生の指導についてくるようにする。	・先生の配慮をうけながら，自分でも身につけようと努力する気持ちをもたせる。	・健康な生活に必要な習慣を大体身につける。 ・安全な生活に必要な習慣を大体身につける。 ・好ましい習慣をみんなではげまし合ってする。	・自分で自分の健康をまもることがほぼできるようにする。 ・安全な生活に必要な習慣を身につける。 ・健康的な環境づくりをみんなでし，年少児にも働きかける。
生活指導	個人的生活指導（基本的生活習慣）	・自分でしようとする意欲を持たせるようにする。	・基本的生活習慣が自立するようにする。	・自立した基本的生活習慣が，乱れないようにする。	・自分の行動の善悪を考えて行動するようにする。 ・自立した基本的生活習慣が身につくようにする。
生活指導	社会的生活指導（社会的訓練・クラス集団の指導）	・集団生活に必要な最低のきまりと役割を，先生といっしょにおぼえようとする。	・先生の助言により，園生活に必要なきまりや役割がまもれるようにする。	・いわれなくても園生活に必要なきまりがだいたいまもれるようにする。 ・クラスやグループの中で，それぞれが役割をもって活動する経験もつようにする。	・園生活に必要なきまりが身につくようにする。 ・お互にきめたことを守るようにする。 ・クラスやグループの中で役割をもち，責任をもって仕事をすることができるようにする。
あそび	あそび（自然発生的なあそび）	・個人のあそびを充分にたのしむようにする。 ・友だちとよくあそぶあそび方，あそびに必要な言葉を知るようにする。	・2，3人の相手を意識しながら，あそびを楽しむようにする。 ・先生の指導により道具をつかって友だちとじょうずにあそべるようにする。	・友だち同士の交渉を深め，グループあそびに発展させる。 ・あそびの中で，友だちの気持ちをお互に考えることができるようにする。	・グループの内容を深め，次第にグループ同士の交渉へと発展させる。 ・みんなと仲よくあそぶにはどのようにしたらよいか，自分から考えたり話しあったりする。
あそび	課業（意図的なあそび）	・先生の意図したあそびに興味をもって，ついていくようにする。 ・ごっこあそびなどをとおして，簡単な役割や集団とのつながりをもつ。	・先生の意図したあそびを経験しながら園全体の流れに参加するようにする。 ・役割やきまりをとおして，個人と集団のつながりを理解する。	・先生の意図したあそびを個人的な経験から，グループ経験へと発展させ，クラスとしてのまとまりをもたせるようにする。	・先生の意図したあそびを自主的な子どもの活動に発展させ，クラスや園全体としてのまとまりをもつようにする。

二才児の場合は個人的なあそびが中心となることから、自然発生的なあそびと、意図的なあそびを区別することはむずかしい。また、社会的生活指導とあそびの指導も同じ場面で行なわれることが多い。

(三) 年間計画（期の計画）

一年を四期にわけ、一期を四、五、六月、二期を七、八、九月、三期を十、十一、十二月、四期を一、二、三月とし、各期の大きな

表 2　期の計画表

ねらい		子どもの姿	・先生と子どもの関係 ・子ども同士の関係 ・園生活への適応
	健康安全指導	生活指導	あそび
保育活動	個人的生活指導		自然発生的 （自由なあそび）
	社会的生活指導		意図的 （まとまってするあそびを含む）

表 3　ねらい

第Ⅰ期	・きげんよく登園し，受持ちの先生や友だちとの生活に抵抗を感じなくなる。 ・先生のはげまし言葉により，生活の型をおぼえるようにする。
第Ⅱ期	・先生を中心として，子ども同士のつながりをもてるようにする。 ・規則正しい生活習慣の型をくずさないようにする。
第Ⅲ期	・子ども同士で短時間あそぶことができるようにする。 ・先生の計画したあそびに興味をもたせるようにする。
第Ⅳ期	・表現活動を充分にたのしませる。 ・自発的な行動のめばえを育てるようにする。 ・幼児集団に入っていくよろこびをもたせるようにする。

表 4　子どもの姿

	先生と子どもの関係	子ども同士の関係	園生活への適応
第Ⅰ期	・集団生活になれず，情緒的に不安定であり，登園の時親からはなれるのをいやがる子が多い。（4月） ・先生に自分の要求を表現できない子が多い。（4月） ・先生になれて，ある程度意志表示をすることができるが，個人差がひどい。（5月）	・お互に抵抗を感じ，話しかけたり遊んだりしようとしない。（4月） ・友だちの名前をおぼえ，お互のあそびに関心をもつようになる。	・自分の部屋以外の生活に不安を感じる。
第Ⅱ期	・受持ちの先生の表情や話しかけによって，簡単な伝達がわかるようになる。 ・受持ちの先生に簡単な身のまわりの要求が言えるようになる。 ・先生に対して親しみの度合が深くなる。	・先生を中心として子ども同士のつなかりかみられるようになる。 ・一人あそびの時は先生が見守る程度でもよいが，あそびがとぎれたり，友だちと衝突があったりする時は先生の相手を必要とする。	・自分の部屋以外の部屋にも親しみを感ずるようになる。 ・受持ちの先生以外の先生にも親しみを感ずるようになる。
第Ⅲ期	・先生の計画したあそびに，大体のこどもがついてくるようになる。	・あそぶ範囲が広くなる反面，友だち同士の衝突が多くなる。 ・あそびの中での力関係がややはっきりしてくる。 ・友だちに対して，なぐさめる，いたわるの感情がみられるようになる。	・他の組の子に親しみを感じ，いっしょにあそぶことをよろこぶようになる。
第Ⅳ期	・表現活動の要求が強く，先生にそれを要求することがみられる。 ・意識して先生に甘えたり，知っていることをわざとやらなかったりする態度がみられる。	・すきな友だち，きらいな友だちができ，張り合ったり言いあったりするがけんかは前期より少ない。 ・自分のことはできなくても，友だちのことを注意したがる。おせっかいがみられる。 ・組としてのまとまりがややできかけて，先生の働きかけに一定時間ついてくるようになる。	・3才児組に入っていくよろこびがみられる。 ・年長組の子といっしょにごっこあそびなどをするのを楽しむ。

表 5　　健康安全指導

	保健管理	環境構成	安全指導	体育的活動
第Ⅰ期	・病歴，生活歴の調査をし，家庭での生活の様子を連絡してもらうようにする。 ・いろいろの検査をいやがらないように前もって心の準備をする。（身体検査，歯牙検査，日本脳炎予防注射など） ・疲労について留意し，朝の視診を念入りにする。 ・病気になったら，早く休ませるようにする。	・便所，手洗場を清潔にする。 ・食器，午睡用ベッド，ふとんを清潔にする。	・登園降園の時は手をつないで歩くようにする。 ・園内であそぶようにする。	・短時間でも戸外であそべるようにする。 ・戸外遊具に関心をもつようにする。
第Ⅱ期	・皮膚疾患の予防と適当な手当てをする。 ・胃腸疾患に対する予防をする。 ・汗の始末を充分にする。 ・戸外では帽子をかぶるようにする。 ・食欲のない子への指導する	・室内の通風をよくする。 ・日おおいなどをして陰をつくる。 ・扇風機で涼をとる。 ・お茶を用意する。 ・着替えの衣服を準備する。 ・防虫剤をまく。	・危険な遊び場所を知り，安全な場所であそぶようにする。	・短時間の水あそびをする。 ・すべり台に上ったり下りたりする。 ・ボールをころがす。
第Ⅲ期	・流感，ジフテリアの予防注射をする。 ・薄着をするようにする。 ・ひび，しもやけの予防をする。 ・洗顔の連絡を家庭にもする。	・暖房器具は危険のないように注意して設備する。 ・室内の換気をはかる。 ・避難訓練に必要なものを用意する。	・先生からはなれないようにして，避難訓練に参加する。 ・暖房器具にさわらないようにする。	・戸外で走ったりとんだりする。 かけっこ　ひっぱりっこ　汽車ごっこ ・戸外遊具でいろいろのあそびをする。 ジャングルにのぼる。 鉄棒にぶらさがる。 手をとってもらって平均台を歩く。
第Ⅳ期	・ひび，しもやけの予防と治療をする。 ・感冒の予防と鼻汁の始末に注意する。	・室内あそびが多くなるので，机の配置に注意する。 ・ふとん類の日光消毒を度々する。 ・暖房器具の危険防止に注意する。	・登園，降園時の交通のきまりを次第にわからせる。 ・暖房器具にさわらせないようにする。	・天気のよい日はつとめて戸外あそびをする。 かけっこ　ボールころがし　鉄棒 ・室内で活動的なあそびをする。 マットあそび　つり輪あそび

ねらいをあげた。（表3）

（月令の少ない子の多い場合は集団生活になれるのに日数がかかるが、大きい子の場合は適応も比較的早いので、一期を四、五月とし、二期を六、七、八、九月としてもよいように思われる。）

期の計画は（表2）のような様式で、それぞれの活動内容を記入した。

子どもの姿は、先生と子どもの関係、子ども同士の関係、園生活への適応の三つの方向から把握し、集団生活での人間関係とその適応を明らかにした。（表4）

健康安全指導は、保母の配慮を中心とする保健管理、環境構成、安全指導に、子どもの活動を中心とした体育的活動を加えた。（表5）

生活指導の個人的生活指導は、その内容を、食事、排泄、睡眠、着衣、清潔とし、社会的生活指導は集団生活のきまりを主にまとめた。（表6）

自然発生的なあそびは、自由なあそびを中心に、子どもの望ましい活動と、保母の役割を含めた。

意図的なあそびは、あそびの内容を入れ、まとまってするあそびの指導を含めた。

あそびの内容及び教材の資料として、二才児保育をしている

表 6　　生　活　指　導

	個人的生活指導					社会的生活指導
	食事	排泄	睡眠	着衣	清潔	
第Ⅰ期	・食事時の型をきめ，それをくりかえすことにより，食事時の習慣になれるようにする。 ・食事前後のあいさつ，手洗い(手ふき)，みんなが揃うのを待つなど先生といっしょにする。	・先生に手伝ってもらい，きまった場所で，いやがらずに用便をする。 ・尿意をもよおしたら，先生に言う。 ・用便後の手洗いを先生にみてもらってする。	・午睡の型づけを，先生のまねをしながらおぼえ，いやがらずに先生の誘導についていくようにする。 ・ねむれなくても，先生がそばにいれば静かに横になれるようにする。	・持ち物（靴，帽子，かばんを先生におしえてきめられた場所におくようにする。	・いやがらずにクオルで顔や手をふいてもらうようにする。 ・手洗いのしかたを，おぼえるようにする。	・1日の生活の流れを，経験しながらおぼえていくようにする。 ・柯子，机の使用法になれ，やってみようとする気持ちをもたせる。 ・生活のきまりを具体的な身体の動きを通しておぼえるようにする。 ・友だちの名前を次第におぼえるようにする。
第Ⅱ期	・箸（スプーン）を使い，手づかみにしないようにする。 ・できるだけなんでもたべるようにする。 ・できるだけ1人でたべるようにする。 ・できるだけ，こぼさないでたべるようにする。	・少しも手伝ってもらえばパンツを下げて自分でするようにする。 ・できるだけ便所でをよごさない。	・午睡準備の型づけをおぼえ，できるだけ自分でしようとする気持ちをもつようにする。 ・午睡後の整容（顔ふき，シッカロールをぬる）をいやがらないでしてもらう。	・服の脱ぎ着になれるようにする。 ・脱いだものを少し手伝ってもらいながらたたみ，きめられた場所におくようにする。 ・靴を自分ではいたり脱いだりするようにする。	・あせもの手当てをいやがらずに先生にしてもらうようにする。 ・食事時の口のまわりや，手のよごれに気づくようにする。 ・よごれた手を自分で洗おうとする気持ちをもたせるようにする。	・簡単なあいさつができるようにする。 おはよう。 さようなら。 ありがとう。 ・みんなとあそぶ時の，簡単なきまりを知るようにする。 玩具はきめられた場所にしまう。 遊具の正しい使い方になれる。 ・先生の手助けにより，相手に自分の感情をじょうずに知らせるようにする。
第Ⅲ期	・あそびながらたべないようにする。 ・主食，副食を交互にたべることになれる。 ・食器を正しく並べるようにする。 ・先生の手伝いをして食器を並べたり，そろえたりする。	・あそびに夢中になないようにする。 ・用便後の後始末を自分でしようとする気持ちをもたせるようにする。	・起こされた時は機嫌よく起きるようにする。 ・はやく起きても，静かにするようにする。	・少し手伝ってもらえば前明きのスモックを自分で脱げるようにする。 ・服のたたみ方をおぼえるようにする。 ・ボタンやホックをはめたり，はずしたりすることに興味をもたせるようにする。	・鼻汁のでたのに気づき，少し手伝ってもらって，自分で始末するようにする。 ・うがいの仕方をおぼえる。 ・爪ののびたのに気づき，切ってもらいたがるようにする。	・お手伝いの仕事に興味をもたせ，それを通して「みんなのために」という気持ちをもたせる。 ・すぐ泣いたり，暴力に訴えたりしないで話をするようにする。 ・一つの遊具をみんなで使用してあそぶ楽しさを経験させる。 ・自分のものと他人のものの区別をわからせる。
第Ⅳ期	・きめられた時間内でたべられるようにする。 ・食事時のマナーがほとんどできるようにする。	・したくなったら，先生に言ってから，自分で用を足しにゆくようにする。 ・パンツの上げ下げ，後始末など一応自分でできるようにする。	・準備や後始末でできるところは，なるべく自分でしようとする気持ちをもつようにする。	・帽子を自分でかぶることになれるようにする。 ・脱いだものをきめられた場所にしまえるようにする。	・身のまわりのよごれたことに自分から気づき，先生に知らせるようにする。	・自分の名前を呼ばれたら返事をはっきりするようにする。 ・簡単な約束を守ることができるようにする。 ・先生に言われれば，1日の生活の流れによるきまりがだいたい自分でできるようにする。

表7　　あそびの内容（まとまってするあそびを含む）

第1期　2才児は個人あそびが中心の時期であるので，保育園においても，ほとんど自由な形態で保育がすすめられてゆく。
食事のような集団行動を必要とする場合でも，第1期の前半は落ちつかず，椅子にじっとすわることができない状態である。
やや落ちつきを見せる5月中旬ぐらいから，おやつや食事の前後に，ごく短時間（5～10分）みんなでいっしょに遊ぶことができ，このあそびから，次第にまとまって遊ぶ時間が持てるようになってくる。

うたう，動く
- 先生の歌にあわせて全く自由にうたったり，動いたりすることをよろこぶ。
うたう子もあれば，うたわないでみている子もある状態であるが，いずれも興味を示してついてこようとする。
先生は，はっきり，正しく歌うことが大切である。

ちょうちょ	（ちょうちょ　ちょうちょ　なのはにとまれ……）
むすんでひらいて	（むすんで　ひらいて　てをうってむすんで……）
チューリップ	（さいた　さいた　チューリップのはなが……）
ひよこ	（ひよこが　にわで　ピヨ　ピヨ　ピヨ　ピヨ　ピヨ　ピヨ……）
ぞうさん	（ぞうさん　ぞうさん　おはながながいのね……）
おうま	（おうまのおやこは　なかよしこよし……）

みる，きく
- 簡単なよく知られている紙芝居などをみてよろこぶ。
紙芝居だけでなく，ペープサートのようなものも好まれるが，いずれも，筋よりも動物が出たり動いたりするそのものに興味を示している。
先生は子どもの顔をよくみながら，話しかけるように話をすすめてゆくことが大切である。

三匹のこぶた	七匹のこやぎ
おむすびころりん	あかずきん

- 小鳥，小動物，金魚などをよろこんで見る。
泣いていた子も，見ているうちに気分転換してあそべるようになることがある。

自由なあそび
- 安定して一人あそびができるように玩具を充分にととのえるようにする。
- 一人あそびができるように先生が仲間入りしてあそぶようにする。

第2期

うたう，おどる
- 先生に「うたをうたって」と要求する。少しむずかしい歌でも，よろこんで何度も何度もうたってもらいたがり，自分の知っている部分だけいっしょに声を出してうたう。子どもにきかせるうたを先生は知っておく必要がある。
「うたのえほん」より

ぶらんこ	（ぶらんこ　ゆれて　おそらがゆれる……）
おはなしゆびさん	（このゆび　パパ，ふとっちょパパ……）
ふしぎなポケット	（ポケットの中にはビスケットがひとつ……）
ふうせん	（あかいふうせん　あおいふうせん……）

- リズムにのって身体を動かす。
動物の動き（あひる，くま，ちょうちょ……）をしたり，みんなで汽車や，いもむしになって行列してまわることをよろこぶ。
先生は簡単な即興の曲がひけるようになることが望ましい。
- 毎日つかう生活のうたをうたったり，それに動きをつけてよろこぶ。
おはようのうた　（おはよう　おはよう　おはよう　せんせい……）

手を洗いましょう（おててを　あらいましょ　きれいにしましょ……）
おへんじ　（たいこのおへんじ　ドンドコドン……）
おかたづけ　（おかたづけ　おかたづけ　さーさ　みんなで……）

先生といっしょに動くことが好きで，先生の模倣をしたり，手をつないで歩きまわったりする。先生は子どもの中に入っていっしょに動くことが必要である。

つくる，かく

・粘土あそびが大好きで10～20分はそれに集中する。
だんご，おかし，へびなどをつくったり，まるめたり，ちぎったりする。
紙をやぶったり，まるめたり，ちぎったり，いろいろもてあそぶ。
まとまったものにできないが，素材をいろいろにもてあそぶことに興味をもつ。
おはじきをならべたり，小型のブロックをつないだりする手先きのあそびも好きである。
フィンガーペイントなどで，手がたをつくったり，指先きではんこあそびなどをする。
クレヨンで自由にかく。

簡単な集団あそび

・ルールにはあわないが，いっしょにすることを好み，手をつないでぐるぐるまわるようなあそびがすきである。
ひらいた　ひらいた（ひらいた　ひらいた　なんのはながひらいた……）
かごめ　（かごめ　かごめ　かごのなかのとりは……）
子どもの王様　（きれいなまるい　わのなかに……）

みる，きく

・絵本をグループになってよんでもらう。
絵本への集中は紙芝居より，ややおくれるが，次第に落ちついた興味に発展してくる。
動物の絵本，乗物の絵本，童謡絵本など

自由なあそび

・わけあったり，いっしょにあそんだりできるような玩具を加える。
・玩具をゆずったり，わけあったりする時に必要な言葉や行動の型をおぼえるようにする。
・あそびがとぎれたり，衝突があったりする時には，先生が仲間入りして遊ぶようにする。

第3期

戸外遊具のあそび

ブランコ……箱ブランコ，向きあってこぐブランコが好まれる。
大鼓橋鉄棒……ぶらさがったり，先生に支えられてまわったりする。
平均台……先生に手をつないでもらって横あるき，前あるきなどする。
ジャングルジム……のぼったり，おりたりしながらあそぶ。
・子ども自身充分注意してはいるが，常に先生が，そばでみていることが必要である。

うたう，おどる

・先生の歌をききたがる。
・自分の動きたいものを先生にひいてもらいたがる。
・リズムのはっきりした歌に合わせて，拍手したり，動いたりする。
しあわせなら手をたたこ（しあわせなら手をたたこ……）
手をたたきましょ（手をたたきましょ　タンタンタン……）

つくる，かく

・この期ごろから個人差はあるが，課題に対して，とりくもうとする気持ちがみられてくる。また自分で何をしようという目的を少しずつもって活動することができる。
キャラメルの箱をつないで汽車をつくる。
空びんに着物をきせて人形にする。
小石を紙につつんでお菓子にする。
・はさみを使う，のりで貼ることに興味をもってくる。

みる，きく

・絵本のみかたが，こまかくなり，集中時間もながくなる。
自分の好きな本を選ぶ，絵本をみながら話す，一生懸命にみる，などみる態度ができてくる。
（子どもがはじめてであう絵本）

・めずらしいものや，かわったものに興味を示し，先生にいろいろきくことが多い。

自由なあそび

・個々の子どものあそびを互に結びつける役割を先生がするようにする。
・先生が中に入らなくても，短時間2，3人で仲よくあそべるようにする。

第4期

うたう，おどる，ひく，きく

・うたにあわせてハンドカスタ，スズなどで拍子をとってあそぶ。
みんなでたたいたり，一人でたたいたりしてよろこぶ。
先生はリズムがはっきりし，歌詞でよびかけるような歌を選び興味をもたせるようにする。

手をたたきましょ　（手をたたきましょ　タンタンタン　タンタンタン……）
がくたいあそび　（ピアノが　ぽんぽんぽん　……）
小鳥がチッチッチッ（ことりがえだで　チッチッチッ　ピッピッピッ　……）

・食後などにレコードをきくのをよろこぶ。それに合わせてうたったり，身体を動かしたりする。

お手々つないで（お手々つないで　のみちをいけば……）
ゆりかご　（ゆりかごのうたを……）
おひなまつり　（あかりをつけましょ　ぼんぼりに……）
はるよこい　（はるよこい　はやくこい……）

・新しいうたをうたいたがり，先生や友だちといっしょにうたうことをよろこぶ。
テレビの「うたのえほん」などの中から簡単なものを選んでみるのも新鮮さがある。

つくる，かく

・ポスターカラーで大きな画をかく。
・野菜でスタンプあそびをする。
・多量の粘土で大きなものをつくり出す。
・紙をきって自由にはる。
・折紙を自由に折る。

みる，きく，はなす

・紙芝居や絵本をみる場合に，画面の説明がなくても，ある程度そのすじに興味をもってついてくる。
・先生のつくった簡単なおはなしをきく。
・絵本を個人で興味をもってみ，絵本をみながらはなす。（きいたことをはなす）

集団あそび

・玉ころがしなど，順番をまってあそぶものができる。
・乗物ごっこ，買物ごっこ，動物ごっこなど，簡単なごっこあそびを友だちとする。

自由なあそび

・2，3人の友だちと，簡単なごっこあそびをしたり，模倣あそびをしたりする。
・年長児といっしょに走りまわったり，ごっこあそびの一員に加わったりしてあそぶ。
・いいあったり，はりあったりする時は，その原因を双方にわからせるなかだちを先生がする。
・楽しくあそぶためのきまりをおぼえるようにする。

玩具をゆずる。
順番を待つ。

保育園で、アンケートによる実態調査を行ない、一昨年実施した三才児の保育活動の調査（日本保育学会第十六回発表）と比較して、二才児の活動の内容を明らかにしてみた。

その結果を参考とし、あそびの内容を更に検討しまとめたのが（表7）である。

表8　個別カリキュラム

環境構成		家庭連絡		行事		
項目 氏名	A	B	C	D	E	F
安全健康指導						
生活指導 個人的						
生活指導 社会的（対人関係とことば）						
あそび 自然発生的						
あそび 意図的						

㈣ 個別カリキュラム

以上のカリキュラムの内容は、二才児の一般的な基準を示すものであるが、実際にこれを活用する場合には、個別的なものが当然必要となってくる。

この個別カリキュラムは月案をかねたもので、個々の子どもの発達の記録と、活動のねらいを合わせたものが記入される。すなわち、基準に合わせてこの子がどうであるか。特に目立ったこと、指導を要すること、特筆すべきことなどを必要に応じて記入していくのである。

実際に記入してみると、社会的生活指導と自然発生的なあそびの指導とは、互に関連しあっており、また、ことばの指導（特にはなしことば）もあそびの中で指導されることが比較的多い。そのため、あそびの中でみられるこれらのことを（対人関係とことば）としてまとめ、その考えを表わした。

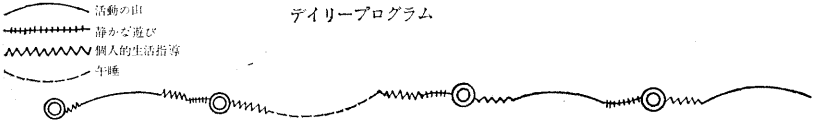
㈤ デイリープログラム

保育計画にもとづき、日々の活動を展開していく場合には、そのデイリープログラムがしっかり立てられていなくてはならない。

デイリープログラムは生活活動量のさしひきを中心に組まれるものであるが、年少児になるほど、生理的要求を基に、無理のない流れをつくらなければならない。

二才児の場合は、おやつ、食事、それに午睡を集団行動の場とし、その前後に個人的生活指導の時間と、休息をかねた静かなあそび（受容あそびや静かな構成あそび）を考える。活動の山は、午前

デイリープログラム



時間	子どもの活動	保母の配慮
8.30	●登園、挨拶、視診、所持品の始末。 ●自由遊び　積木、絵本、スベリ台、その他の玩具で自由意志に基づいて個々にあそぶ。 ●片付け、用便、手洗、鼻汁の始末　洗顔 ●間食　絵本をみる、先生のうたう歌をきいたり、うたったりする。 ●自由あそび、またはまとまってする遊び。　粘土ですきなものを作る。　戸外で自由にあそぶ。 ●片付け、用便、手洗い、鼻汁の始末。 ●昼食。 ●紙芝居をみながら休息する。 ●午睡の準備（用便、手洗、足拭き） ●午睡	●健康状態を母親よりくわしくたずねる。 ●家庭への連絡方法をたしかめる。 ●遊びの材料を使いやすいように整えておく。 ●泣いたり、手まねで要求を訴えないで言葉を使用するように指導する。 ●一人でできるように、励ましの言葉をかけてやる。 ●動物、乗物の絵本をみせながら話し合う。 ●うたいたい子だけ自由にうたわせる。 ●作っているものについて、いっしょに考えてやる。　できたものをみんなでみる。 ●遊具の使用に注意する。 ●子ども同士の結びつきをよく観察する。 ●一人で食べるように励ましの言葉をかける。
12.00		
1.00		●「おやすみなさい」を言って、一人で静かに休むようにする。 ●室内を温度に気をつける。 ●家庭への連絡事項を記入したり室内を整えたりする。
2.50	●起床　用便、手洗い、洗面、整容	
3.00	●間食　お話、絵本による休息をとりながら、家庭からの迎えを待つ。 ●所持品を身につける ●迎えのあったものから挨拶、帰宅。 ●居残り児は迎えのあるまで自由遊び。 ●迎えのあったものから順次挨拶帰宅。	●「さようなら」の挨拶がはっきり言えるようにする。 ●危険のないように充分気をつけ淋しくないように心を配る。
3.30		
5.00	●間食	●五時以後にまでなる時は間食が必要である。

中に二回あるが、子どもが落ちつきをみせる第一期の後半ごろから、第二の山に短時間（五～十分）ながらまとまってあそぶ時間が持てるようになってくる。ここで、意図的なあそびが主に指導されるわけであるが、画一的な一斉保育の型にならないように、充分注意する必要がある。

また、保育の流れからもわかるように、長時間保育の場合は、五時頃にもう一度、間食または軽い食事を与えることが理想である。

このような生活時間の規則的な流れが、子どもの健康を守り、行動の自立性を促すたいせつな要素となっているのである。

また、二才児では、このデイリープログラムが最も活動の中心となるものであるから、具体的な内容が記入されるようにしなければならない。

なお、二才児は一才児とちがい、一組一本のプログラムで実施できるが、夏期と冬期で多少の時間の変化を考慮する必要がある。

（註）このカリキュラム及びその内容については、昭和三十八年に試案を作製し、昭和三十九年四月より一年間、名古屋市公立保育園十園において実施し、二才児担当の先生方の御協力により、毎月一回集り、検討補正したものである。

（名古屋市立保育短期大学）